

講義コード	11C0120700	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	経済統計学Ⅰ					辻村 雅子		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	<p>一国経済の現状を数値で客観的に把握するための勘定体系として、国民経済計算体系（The System of National Accounts: SNA）という国際基準が作成されている。この体系は国民所得支出勘定、国民貸借対照表、産業連関表、資金循環勘定、国際収支表・対外資産負債残高表の5勘定により構成されている。本授業ではこれらの一つずつ取り上げ、マクロ経済の捉え方について理解を深められることを目指している。</p> <p>第1期には、まず国民経済計算体系の全体像を Gross Domestic Product (GDP、国内総生産) を中心に解説するとともに、GDPの推計に最も重要な役割を果たす産業連関表を取り挙げる。統計の枠組みや作成方法を紹介するとともに、観察から導かれる知見や、実践的な分析手法も学ぶ。</p>								
到達目標	国民経済計算体系や産業連関表を基礎にしたマクロ経済の捉え方を理解し、経済統計の見方と基本的な分析手法を学ぶことで、自ら経済の現状を分析できるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。授業中に提示した課題を解き、レポートとして提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 国民経済計算体系の歴史  【第2回】 国民経済計算体系の5勘定の概要  【第3回】 産業連関表の解説（1）産業連関表の歴史  【第4回】 産業連関表の解説（2）統計の枠組み：中間財取引部門  【第5回】 産業連関表の解説（3）統計の枠組み：最終需要部門、付加価値部門  【第6回】 産業連関表の解説（4）統計の枠組み：名目GDPと実質GDP  【第7回】 産業連関分析の基礎（1）三角化  【第8回】 産業連関分析の基礎（2）レオンティエフ逆行列を用いた波及分析  【第9回】 産業連関分析の基礎（3）影響力係数、感応度係数  【第10回】 産業連関分析の基礎（4）スカイライン分析  【第11回】 産業連関分析から見た経済発展  【第12回】 様々な産業連関表：地域産業連関表、国際産業連関表、環境分析用産業連関表  【第13回】 国民所得支出勘定の解説  【第14回】 国民所得支出勘定の読み方  【第15回】 まとめ</p>								
成績評価の方法	期末のレポート課題（80%）と授業中の課題の提出や取り組み姿勢（20%）で評価する。								
フィードバックの内容	講義内の課題に対する解答例は、翌週の講義内やポータルサイトにて発表する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『System of National Accounts 2008』 European Commission etc. 2009年								
教員からのお知らせ	経済学、統計学およびExcelの操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。 課題を解く際には、実際に経済統計をダウンロードして分析するため、パソコンを利用する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
その他									